

OUCC OB 会 2020 年幹事会 議事録

日時：2020 年 6 月 27 日（土）10:00～13:30

場所：zoom

作成者：原田（H28）、小島（H18、幹事長）

参加者(敬称略、()内は入学年度)：米田（S42）、近藤（S43）、田中（S47）、小野（S54）、升谷（S57）、入船（H13）、今岡（H14）、小島（H18）、小河（H18）、東（H20）、黒川（H24）、主藤（H27）、仙田（H27）、鈴木（H27）、岩田（H27）、原田（H28）、雑賀（H28）、金（H28）

1 会計

- 2019 年度の会計報告
- 資料 03、資料 04 をもとに説明

1.1 2019 年度会計に関する質疑応答、意見交換

- 会報作成費が H30 から R01 にかけて大幅に下がっているのはなぜか？
 - H30 は印刷ミスにより、2 度印刷にかけた都合上費用が大きくなった。H29 と R01 が同程度であり、H30 が課題だったと理解していただきたい。
 - 加えて、現役生に対しては、全員配布を止め配布部数を保存用に 3 部程度としたため、発行部数も少なくなっている。
- 会報を電子化するという話題があったと記憶しているが、議論はどのようになっているか？電子化を行って、会報作成費を削り、現役活動助成金を増やすということも検討してはどうかと考えている。
 - 現在、執行部で話しあいは進めているが、結論は出していない。
- 返信ハガキ受け取り料が空欄となっている理由は何か？
 - 今年度会計に申請したがまだ反映されていないので今後反映する予定

To do

- **名簿管理岩田さん：返信ハガキの受取料を会計に請求する。**

継続議題

- **会報の電子化などについての議論**

1.2 2020 年度会計予算案

2 OB ランについて (田中、黒川)

- 2019 年 OB ラン開催中止の経緯についての説明（資料 05）
 - 台風が接近していたため中止と判断した、甚大な被害が出ていたため中止は妥当であったと認識している。

- 2020 年 OB ラン・総会の開催について
 - 開催しない方針で検討している。この理由としては、確実に開催できるか不確定である、もし感染者がでたら大学に迷惑がかかる、開催を強行しても参加者が少なくなる、などを考えている。
 - 主管学年としても、幹事長としても、総会はオンライン開催で代替できるという認識である。
 - 総会を開催する場合は web ミーティング形式以外に、書面審議形式、も可能だろう。書面を事前に配布しておき、意見を集約しておくなど、執行部には一定の工夫をしてもらいたい。
 - 主管学年以外からも「やはり中止が妥当だろう」「総会はオンライン形式で代替可能だろう」という意見が出た。

- OB ラン・懇親会の代替について
 - OB ランの役割として、世代間の交流があるので、これについては web 飲み会などを開くことで、ある程度役割を果たすことができると考えている。
 - 懇親会をオンラインで開催する際の懸念として、参加人数が最大 99 人までである点が挙げられる。発言しにくいことが考えられるが、ブレイクアウトセッション機能を用いて、少人数で分けることもできる。企画等をしっかり考えることで対策可能と見込んでいる。こういった宴会のノウハウは web で公開されている。
 - OB ランができないから、「しかたなく web 飲み会」という捉え方ではなく、普段の OB ランであれば、物理的・日程的な制約で参加できない人も、参加できるような取り組みである、というように前向きに捉えて、開催してもらおうとよいだろう。50 周年記念式典での催しなども参考になるだろう。

- 2021 年の OB ランについて
 - 2019 年は台風により OB ランは中止となった。この関係で 2020 年は、2 学年合同で主管学年を担当するという仕組みであった。しかし、2021 年には主管を継続するという事はしない。
 - OB ランの慣習として、5 年に 1 度は大阪で開催しており、2021 年はこの大阪開催にあたる年である（規約等で定められたものではない）。
 - 2021 年に開催できたとして、OB ランは 3 年ぶりの開催となるため、運営ノウハウや近い世代からのサポートが得られない。そのため、執行部側でサポートを手厚く行う必要がある。

- To do
 - 小島：総会と web 懇親会の日程を決める。
 - 小島：OB ランの中止を連絡する。併せて、web 懇親会を予定している旨、告知する。
- 継続議題
 - 執行部、OB ラン主管学年：Web での懇親会について、方法や時期を検討する。
 - 執行部、OB ラン主管学年：2021 年の主管学年との意思疎通や引継ぎを早期に図る。
 - 執行部：総会での審議方法について検討する。

3 OB 会規約の変更案 (小島)

- 変更点のメインは OB 会の入会時期と OB 会の組織図に関して

- 実態に即した改善を行うため、変更すべきではないか？
- 幹事会という名前で年1回の会合を実施しているが、幹事が集合して事務を取り仕切るという形にはなっていない。であれば、事務局に直したほうが実態にも合い、整合するのでは仁香？
 - 「幹事会」という名前と実態が乖離しているというのは理解できる。一方で、そもそも学年幹事が参加できていない状況を、改めるほうが理にかなっているかもしれない。また、参加しない学年幹事側に責任があるのであり、幹事長が悩む必要はないかもしれない。
 - また、連絡役として機能していない学年幹事もおり、彼らに対して役割を果たせないのであれば、交代を促すといったアプローチもありうるだろう。
 - 特にメリットがないのであれば、無理に会則や体制を変える必要はないのではないか？
 - S54 小野さん：幹事会について、Web でなければ参加不可能だった。web 形式で呼びかけるともう少し参加が増えるかもしれない。
(※小島補足：5・6回生以外の学年幹事が参加することは、非常にまれである。
- OB 会の入会時期をこれまでの大学を卒業してからだったのを、3回生でサイクリング部を引退した後にするべきではないか？会則上はいわゆる「5回生」からOB会員になるが、1年間の期間にOB会員という意識が薄れ、会費未納に繋がってしまう可能性がある。
 - OB 会の入会時期を変更することに関しての反対意見は特になし。
- 会計の担当を毎回実行部隊(5回生)に任せていたが、毎年会計を担当する人を変えるのはリスクがあるので、執行部に預けてはどうか。
 - 執行部で会計を行い、首尾一貫して責任をもつ、という意見には一定の賛同が得られた。
 - 一方で、それによって執行部の負担が増えるのではないかという懸念も挙げられた。
 - そのかわりに、執行部で行っている仕事で何か実働委員にお願いすることはしないのか、との提案がなされた。
- 関東支部を規約から外したほうが、自由に活動をできるようになるのではないか？
 - 小島・後記：関東支部を規約から外すという部分については、2016年度の幹事長着任時の不見識な状態で書いた文章を提案してしまい、意味のない、かつこれまでの支部活動を無下にするような提案となってしまったと認識しています。そのため、「資料07：(参考)規約変更に関する私見」は幹事に送付する資料からは除きます。
申し訳ございません。
- To do
 - 小島：4年生からOB会員とする規約の変更を総会にて提案する。
- 継続議題
 - 執行部：会計を実働委員から引き揚げることについて、検討する。同時に、執行部での業務のうち実働委員に委任できるものは委任する。

4 名簿管理の作業の振り返り

- 例年と異なった作業として、多田さん、近藤さんから送付していただいた「名簿の不一致 (住所と市外局番、郵便番号) 情報」に基づき、誤りが明らかな名簿情報を更新した (鈴木)
 - 誤りかどうかの判断が難しい名簿情報については、あらためて対応を検討する。
- 毎年の幹事会報告・各学年の会員情報の更新の案内の際に、学年幹事数名から返信が返ってきていない。
- To do
 - **名簿管理+小島 (+関東支部の方) : 返信の無い学年幹事への連絡手段として、同学年の他の会員に連絡を取るなど、これまでとは異なる方法で連絡を取る。必要であれば学年幹事の交代を促す。**

5 名簿管理の外部委託の検討および阪大坂への個人情報の掲載の是非について (小島)

- 名簿管理の簡略化が目的、手数料の費用面で考慮して MiiT+ がいいのではないかと考えている？ 試行などは行ってないため、引き続き検討を進める
- MiiT+の場合、他の会員の情報を知ることはできないとみられる。
- サイクリング部 OB 会として、必須の要件が何なのか、情報を明示的に整理したほうが良い。また、執行部と会員側で要望が変わるはずなので、その要素を整理して欲しい。サービスに含まれる要素と、含まれない要素を想定して、実際の運用を検討して欲しい。
- 情報提供のサービスそのものを、引き受けてくれるような委託先はあるだろうか？
 - イメージ：
 - 会員個人が情報提供して欲しい旨、フォームからサービス窓口へ連絡
 - サービス窓口を通じて、管理者に連絡
 - 管理者が情報提供を許可
 - サービス窓口を経由して、会員個人へ情報提供

必須の要件 (幹事会で挙げられたもの)

- 会員個人の情報の更新を、会員個人で行ってもらえる。
- 管理者側が access を操作せずに、直感的に情報管理 (入出力) を行える。

あると望ましい要件 (幹事会で挙げられたもの)

- 会員個人で、公開しても良い情報、後悔したくない情報選択できる。
- 公開情報は、OB 会員であれば誰でも入手できる。

- (継続審議、執行部で要件について検討する)

- 阪大坂の名簿情報を掲載することの是非について
 - 個人情報保護の観点から、名簿情報の掲載が、情報漏洩のリスクになりつつある。

- 阪大坂の名簿を無くしてしまえという話なのか、簡略化したいという話なのか、どちらの意図か？
 - ✧ 簡略化する意図である。名簿自体は、掲載はしない場合でも、執行部・幹事会側で管理は今まで通りに継続する。
- 簡略化という方向には賛成だが、完全に掲載しないとすると、別の学年の個人名すら把握できなくなり、そのことは OB 会の存在意義を揺るがしたり、デメリットが多くなるのではないか？「学年」「名前」、さらに関東支部としては「都道府県」（関東圏在住者を把握したい）程度で構わないので、掲載しておいてもらえると、利用しやすいのではないか？
- 支部活動など、多数の名簿が必要な場合は、実働委員に名簿情報を切り出して、提供することは可能なので、紙媒体である必要はないかもしれない。

- 補足：現状では Access から、名簿管理を外部に委託したとしたらその委託先から、データを抽出して、必要な方に情報を提供すること自体は、適切な手続きを経れば、可能である。実際に、関東支部には、住所情報等を提供している。

- 昔は、OB 会報の住所を見て、年賀状を書く方が多かったため、OB 会報が 12 月初旬には届くような作業スケジュールであった。また、編集としても「年賀状のため」に名簿が必要だという意見を聞いた。この辺りについて、年代が高い方々はどうかとらえているのか？
 - 現状、年賀状を書くために住所一覧を利用している方は少ないのではないかと考えている。ただし、must ではないと思う。
 - 無かったら、無かったで問題は生じないだろう。その変わりとして、住所を知るための窓口情報を、開示しておいてもらえると助かる。

- 以上で議論した「外部委託」と「阪大坂への名簿情報のとりやめ」が同時展開されているほうが、よいのではないか？
 - 名簿管理の外部委託の検討が遅れているので、同時展開が難しい場合はありうる。その場合には、阪大坂の名簿情報を先にとりやめるということは起こりうるだろう。

- To do

- 小島：阪大坂の名簿情報について、次回分はどこまで掲載するか、総会で諮る。

- 継続議題

- 小島：(同時展開が望ましい) 名簿情報の外部委託について、執行部で要件整理、試行を進める。

6 編集作業の振り返り

- 阪大坂の現役生向けの発行部数を大幅減（会計関連項目でも言及）
- 阪大坂の発送が 11 月中に終わらず、12 月 15 日に発注することとなった。その結果印刷は 1 月 6 日、発送はそれ以降となった。
 - 例年なら発注から 1~2 週間程度で発送されるが、今年は 1 か月程度かかっており、この点も阪大坂の発送が遅れた理由である。

- マニュアルの共有や引継ぎが遅れた面があり、この点は執行部側の反省点である。
- 1名、海外へ発送した阪大坂が、宛先不明で返却されてきた。現在、特に対応をしていない。
 - メールで「海外に発送して欲しい」と連絡を頂いてた方（昭和54年入学 長谷川 邦昭様）
 - 海外への発送料金は、着払いか？会計からか？
 - ✧ 今年度は、執行部の判断で会計から出した。マニュアル化・ルール化しておくべきことだと考えている。
 - 過去には、海外在住者には送らないというルールとしていたり、留守宅というサービスを利用していた。
- 編集マニュアルについて、発送直前に行う作業に関する記載漏れがある。今回気の付いた点については、更新する必要がある。
- 数名、宛先不明で返却された阪大坂に関して、後日メール等で「住所が変わったので、着払いで発送して欲しい」という連絡があり、着払いで発送した。連絡を受けた方の名簿情報は更新した。
 - この点について、マニュアル等に記載は無く、初めての対応であった。追記が必要である。
- To do
 - **小島：阪大坂の名簿情報について、次回分はどこまで掲載するか、総会で諮る。（名簿管理に関する議論の内容を再掲）**
 - **東、編集：今年度発生したトラブルや、気づきのあった発送直前の作業に関して、マニュアルを更新する。**

7 関東支部よりの議事

- 関東支部活動になじみのない方も参加していたので、関東支部の歩みを振り返り。
- 新たに名刺を作成した。
- 関東支部ラン、関東支部総会、オンライン懇親会の実施報告。
- ホームページを大幅に更新した。
 - OB会本部側の頁やOBランの頁フォーマット等も作成いただいた。
- 輪球班の支援を行った。
 - 現在の日本室内自転車競技連盟の会長である妙中様（OB会員）から寄付のお願いがあった。
- OB会名簿の正誤訂正について、ご連絡いただいた
- 走破都道府県塗りつぶし企画などを実施した。
- To do
 - **小島：HPの更新に向けて、田中様と意見交換、試運用の開始などを行う。**

8 その他

- 2020年最近の現役生の活動状況はどうなっているか？
 - 現在、団体としての部活動は認められていない。個人としての活動は7月以降認められる。
 - 7月上旬にサークルオリエンテーションが実施される予定。